

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 10 日現在

機関番号：32409

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520515

研究課題名（和文）

LSP 教員研修を基盤とした実践的外国語（英語）教員研修カリキュラムの構築

研究課題名（英文）

Practical Language (English) Teacher Education Curriculum Development Based on LSP

研究代表者

笹島 茂 (SASAJIMA SHIGERU)

埼玉医科大学・医学部・准教授

研究者番号：80301464

研究成果の概要（和文）:

本研究では、実践的外国語教員(Practical Language Teacher)の育成を目指し、(1)ELP (European Language Portfolio)と CLIL (Content and Language Integrated Learning)と教員研修との関係性、(2)外国語教育研修における多言語多文化の背景、(3)実践的外国語教員研修カリキュラムの実効性との日本への応用、(4)「日本における実践的外国語教員研修カリキュラム開発」という4段階の調査研究を実施した。成果の詳細は、『LSP 教員研修を基盤とした実践的外国語（英語）教員研修カリキュラムの構築』としてまとめ、ウェブに公開した。

研究成果の概要（英文）:

This study is aimed for developing Practical Language (English) Teacher Education Curriculum (PLTEC). There are 4 research stages: (1) the relationships in teacher education about ELP and CLIL, (2) multilingual and multicultural language teacher education, (3) PLTEC and its application for Japan, and (4) development of PLTEC in Japan. The details of the research results are publicized on the website at <http://lspteachereducation.blogspot.jp>.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教師養成・LSP・言語教師認知

1. 研究開始当初の背景

本研究は、LSP (languages for specific purposes) (特定及び明確な目的のための

外国語教育) の理念を基盤とした教員養成と研修システムの枠組の構築を目的として、順次系統的に研究を進めている内容の一環として位置づけられる。学術的には、ヨ-

ヨーロッパにおける CEFR(Common European Framework of References for Languages) (ヨーロッパ言語共通参照枠) の理念と我々固有の教師教育の融合を図ろうとする実践的言語教員研修研究領域にあり、近年注目を集めつつある「反省的実践家(the reflective practitioner)」(Schön, 1983)の観点から教員研修を考察する。

2. 研究の目的

本研究は、次の4段階の調査研究を背景として実施した。

- (1) ELP と CLIL と教員研修との関係性
- (2) 外国語教育研修における多言語多文化の背景
- (3) 実践的外国語教員研修カリキュラムの実効性との日本への応用
- (4) 日本における実践的外国語教員研修カリキュラム開発

目的は、LSP 教員研修システムの信頼性と妥当性を検証し、ヨーロッパで進められている ELP 及び CLIL と教員研修の実態を背景として、日本における実践的な外国語(英語)教員研修の枠組を構築することである。

3. 研究の方法

上記の4段階に則り次の方法で調査研究を進めた。調査の手法としては、質的調査を行い、エスノグラフィーの手法を主に用いた。

- (1) ELP と CLIL と教員研修との関係性
ポートフォリオ評価の観点と科目内容と言語を統合した学習が実際にどのように実施され、どのような教員研修プログラムがあるのかを実施調査より明らかにする。
- (2) 外国語教育研修における多言語多文化の背景
CEFR の理念から生まれた「文化間コミュニケーション能力(intercultural communicative competence)」に関して、専門家からの聞き取り調査を実施し、さらに授業などを実際に見ることから明らかにする。
- (3) 実践的外国語教員研修カリキュラムの実効性との日本への応用
日本の伝統、地域性、教育環境、政策などを背景とした環境に合うモデルとしてフィンランドの教員研修に注目し、スコットランドなど他国と比較しながら検証した。
- (4) 日本における実践的外国語教員研修カリキュラム開発
(1), (2), (3)の調査研究段階を経て、日本における教員研修モデルを考える。その際

に、試案した教員研修モデルを他の専門家に示し、意見を聞きながら調整した。

4. 研究成果

研究成果は、『LSP 教員研修を基盤とした実践的外国語(英語)教員研修カリキュラムの構築』と題して、ウェブに公開した。内容は、教員研修カリキュラムを10のスタンダードをもとに提示した。具体的には、スタンダード、サブスタンダード、科目と実施例、モジュール、留意点など、実践的外国語(英語)教員としての自律的学習を示した。10のスタンダードは下記のとおりである。

スタンダード1：外国語の知識と技能
スタンダード2：外国語授業運営の知識と技能
スタンダード3：学習者の外国語学習目標の明確化
スタンダード4：学習者の外国語学習ニーズに沿ったカリキュラム設計と評価
スタンダード5：学習者の学習履歴の把握と学習方法の支援
スタンダード6：学習段階、科目内容、分野、仕事などのディスコースコミュニティの理解
スタンダード7：教育目標、学校文化の理解と外国語教育の専門性
スタンダード8：外国語使用のジャンル(場面や社会文化など)に対する理解
スタンダード9：初等教育から高等教育まで系統的な外国語教育理解
スタンダード10：評価測定方法に関する知識と技能

具体的には、次のように構成して示している。(例)

スタンダード1：外国語の知識と技能
外国語に関する必要な知識と技能は外国語指導の基本である。実践的外国語教育に携わる言語教師(以下PLT)の場合、基本的な言語にかかわる知識(語彙、文法構造、表現、発音など)や技能(聞く、話す、読む、書く)は当然必須となる。しかし、ただ単に言語の知識や技能に習熟することよりも、指導に生かせる言語の知識や技能でなければならない。

1.1 PLTは、養成に入る段階でCEFRレベル設定のB1程度に達しているものとする。望ましくは研修等を通じてC1まで到達するものとする。

- 1.2 ...
- 1.3 ...

カリキュラム

科目	内容例	自己評価		
		80 %	60 %	40 %
リーディングなど英語の技能向上を目標とした科目	インターネット上のニュースなどを読み、議論する			
	小説などを一冊読み、内容や感想をまとめる			
	国連など公的機関が提供している文書を要約する			
	観光・広告などの文書を読み、特徴を分析する			
	関心ある分野のテキストを読み、特徴を分析する			

モジュール

上記のカリキュラムを統合することを目的として、様々な科目、分野、仕事などについて、各個人で一つのジャンルを設定し、それに関連した言語知識と技能を調査分析し、学習を深める。言語的には、発音、語彙、文法構造、表現、テキストなどの特徴、内容的には、分野における外国語（英語）のニーズや知識体系の特徴、学習スキルとしては、その分野の学習で必要となる言語学習の特徴などを調査して、分析して、まとめる。

留意点

1.1 CEFR レベル設定の C1 の補足：

【聞く】

たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているだけで明示的でない場合でも、長い話が理解できる。

・特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。

外国語による講演、説明、ニュース、映画、劇、ドラマなどがそれほど専門に特化しない限り、ほぼ理解できるレベル。ただし、特定の社会文化的な込み入った内容（ジョークや皮肉など）は困難をとまなうが、自身が活動する範囲内においてはほぼ標準的な母語話者と同等のレベル。教師という役割からすると、聞くという能力を指導的な観点で理解しておくことが必要である。特に、音声学的な観点の理解も必要となる。

今後、ウェブに公開したカリキュラムの実践を進め、検証と周知を図りたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 5 件)

1. Sasajima, S. (2011). Effective Classroom-based Teacher Assessment (CBTA) Based on the CEFR Levels. *Otsuka Forum*, 査読有. No. 29. 61-68.
 2. Sasajima, S., Godfrey, C. and Matsumoto, K. (2011). Content and Language Integrated Learning Methodology for Medical Students. *Journal of Medical English Education*. 査読有. Vol. 10. No. 3. 88-97.
 3. Sasajima, S. (2009). Review of the 43rd Annual International IATEFL Conference and Exhibition in Cardiff, Wales. *Asian Englishes*, 査読有. 12. 144-147.
 4. 笹島茂. (2009). 「フィンランドの外国語教師の専門性」. 『大塚フォーラム 27号』 査読有. 69-77. 東京：リーベル出版
 5. 笹島茂. (2008). 「CLILとLSP」. 『大塚フォーラム 26号』 査読有. 50-56. 東京：リーベル出版
- 〔学会発表〕(計 4 件)
1. Sasajima, S. and Ikeda, M. (2012). Effective INSET programmes for

CLIL teachers in an EFL context.
46th IATEFL(International
Association of Teachers of English as
a Foreign Language)Annual
Conference.Glasgow, Scotland. 19th –
23rd March 2012.

2. Sasajima, S. (2011). Content and
Language Integrated Learning
(CLIL) for Japanese Medical
Students. 20th MELTA (The
Malaysian English Language
Teaching Association) International
Conference. Kuala Terengganu,
Malaysia. 30th May – 1st June 2011.
3. Sasajima, S. and Godfrey, C. (2010).
Focusing on CLIL Methodology with
Medical Students. JASMEE Annual
Conference. St. Luka's College of
Nursing. Japan. 3rd July 2010.
4. Sasajima, S. (2009). Aspects of EFL
teacher cognition identified through
interviews and observations. 43rd
Annual International IATEFL
Conference And Exhibition Cardiff,
Wales. 31st March - 4th April 2009.

〔図書〕(計1件)

1. 笹島茂(編著)他. (2011). 『CLIL —
新しい発想の授業』. 東京：三修社

〔その他〕

ホームページ等

<http://lspteachereducation.blogspot.jp/>

6 . 研究組織

- (1)研究代表者 笹島茂 (SASAJIMA SHIGERU)
埼玉医科大学・医学部・准教授
研究者番号：80301464